

I 特別支援教育

平成23年2月4日に山梨県特別支援教育振興審議会の答申が6回の審議を終えて出されました。答申の中では次のようなことが述べられています。

- ・特別支援学校の在籍者数は平成7年度の503名から平成22年度は898名と大きく増加。知的障害特別支援学校の在籍者数が平成22年度672名（153学級）と過去最大（平成7年度は275名）。
- ・在籍者数の増加に伴う教室不足が生じており、知的障害特別支援学校においては著しく、平成22年度は特別支援学校全体で39教室が不足。特に、ふじざくら支援学校は、教室不足が常態化しており、教室不足も多く、今後も児童生徒の増加が見込まれることから、早急な改善が必要。
- ・教職員の専門性については、研修及び指導実践の充実や専門性のある教職員の計画的な養成・配置が必要。
- ・高校モデル事業の実践研究を更に進め、発達障害等の生徒への支援体制の充実方策について検討し、成果を高等学校全体の取組みへ繋げる。

＜南都留地区特別支援学級担当者研究会 学習会＞ 於：ふじざくら支援学校

「カテゴリー別学習会」及び「悩み相談」



第3回（12月2日）国語・算数、自閉症・発達障害、運動・動作、視覚障害
第4回（1月27日）日常生活、進路・教育課程、心理検査

参加者36名が、2回にわたりそれぞれのカテゴリーに分かれて研修を行いました。ふじざくら支援学校の原先生を中心に、各カテゴリー別にふじざくら支援学校の先生方に様々な指導方法を教えて頂き、また、それぞれの学級担当者の悩みに答えて頂きました。

II 地域連携事業

＜教育相談ネットワーク会議＞ 以下の内容についての研究協議が行われました。



◎第2回（12月15日）

①富士吉田市の自立支援事業（富士吉田市立教育研修所）、②富士・東部保健福祉事務所 健康支援課の取組み、③ふじざくら支援学校の地域支援活動における連携、やまびこ支援学校地域支援実施概要、④スクールソーシャルワーカーの事例を通じて地域の資源をつなぐ連携（富士・東部教育事務所 スクールソーシャルワーカー）

◎第3回（2月9日）

①地域教育相談室（都留文科大学）の活動について、②職業体験活動、相談業務現状と課題（富士河口湖町立教育センター）について、③南都留地区小学校生徒指導担当者研究会議で出された現状と課題（富士・東部教育事務所）

III やまなし学校応援団育成事業（文部科学省事業名：学校支援地域本部事業）

地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進するため、地域コーディネーターが、学校の求めと地域人材の力をマッチングさせて、より効果的な学校支援を行い、それによって、教員の子どもと向き

合う時間を増加させるとともに、学校を核として地域住民が交流する中で地域の教育力の向上を図る事業です。その事業の一つである学校支援ボランティアの研修会が山中湖村情報創造館で行われました。

<富士・東部地区学校支援ボランティア研修会> 11月18日(木)

講師：生重幸恵様 NPO法人スクール・アドバイスネットワーク理事長
「地域の活力を学校支援に活かそう」



学校教育と軌道をひとつにした社会教育の推進として、地域教育プラットフォーム構想についての説明がありました。学校・家庭・地域の教育力を再構築するしくみで、地域の特性などに合わせた多様な学習機会を提供するために多くの社会資源を効果的に活用していくことです。「学校教育支援」の取組みに関しては、今後、学校教育と社会教育が双方向に向かい、お互いが融合してボーダレスの状態へ移行していくとの内容でした。学校にとっては力強い応援となるでしょう。

IV シオジ森の学校

2011年度のオープンキャンパスが2月26日(土)大月市民会館で開催されました。山梨県立県民の森「森林科学館」の石原誠さんを迎えて、「森の動物たち」について講演をして頂きました。石原さんは動物のウンチに日本一詳しい方です。また、初狩在住の小林博さんに「すみれの里大月」についてのお話を頂きました。大月のすみれの写真を40年もとり続けている方です。自然を見つめるスタンスをもう一度考え直す良い機会となりました。



V 「明日の風」アスリート実技講習会



○第6回：2月19日(土) ○第7回：3月5日(土)
6回を数えるアスリート実技講習会も3月5日をもって終了しました(第3回は雨天中止)。総参加者は400名を超え、たくさん子どもたちが貴重な経験をする事ができました。多くの素晴らしいスタッフによる指導



により大変有意義な練習となりました。子どもたちにとっては他の小学校の仲間や中学生のお姉さん、お兄さんとの交流の場ともなっています。ぜひ来年度も参加してたくさんのお話を楽しく学んでほしいと思います。保護者の皆様、引率等、ご協力本当にありがとうございました。

VI 言葉<社会教育主事研修から>

○科学教育：「科学技術は便利だけではなく、精神的に豊かに生きるための糧ともなります。より人間らしい生活をするために、科学技術についての知識は不可欠です。」

(渡辺政隆氏：科学技術振興機構科学ネットワーク部コミュニケーションスーパーバイザー)

○人権教育：「いわれも根拠もないことを信じていませんか？そして、誰かに伝えていませんか？」

「どうしてなのかわからないけれど、昔から、そうだから・・・」と世の中の慣習、言い伝えや常識に寄りかかるのではなく、自分で見て、考え、判断して行動することが大切です。

(山中千枝子氏：千斗枝グローバル教育研究所 代表)

○環境教育：「ゴミ問題は拾うだけでは解決しません。」

(小嶋あずさ氏：JEAN/クリーンアップ全国事務局 代表)

○青少年問題：「グローバル化する世界の中で、将来の日本や日本文化を担うであろう現代の多くの青少年にいま、必要とされている体験を私たちが提供しなければならない。」

(星野敏夫氏：明治大学教授)

【今年度最終号です。今後ともご意見、情報等をお送り下さい。1年間ありがとうございました。】